

## 令和2年度 第1回芦別市総合教育会議議事録

○日 時 令和3年3月2日（火） 午後4時から午後4時40分まで

○場 所 市役所3階 第1会議室

○出席者

（市 長）荻原 貢

（教育委員会）

教 育 長 福島 修史 教育長職務代理者 水上 博樹

教育委員 山本 融聡 教育委員 坂井 大樹

教育委員 須藤 美紀子

（事 務 局）

津幡総務部長、高橋企画政策課長、高橋学務課長兼学校給食センター所長、  
本間生涯学習課長、内山図書館館長兼星の降る里百年記念館館長、酒谷体育振興課長、  
事務局職員2名

○傍聴者 なし

○報道機関 北海道新聞社芦別支局

### 1 開会（津幡総務部長）

### 2 市長挨拶（荻原市長）

令和2年度の第1回総合教育会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

教育委員の皆さんにおかれましては、年度末の何かとお忙しいところご出席をいただき、誠にありがとうございます。

私事ではありますが、先の市長選挙におきまして、再び市政の重責を担わせていただくことになりました。市民の皆様の期待に応えるべく誠心誠意務めて参りますので、引き続き市政・行政の推進に皆様の力添えをお願い申し上げます。

今日の教育行政につきましては、その果たすべき役割、重要性はますます増しております。特に、子ども達の減少傾向は加速化しているところであり、未来を担う将来の子ども達の健全育成においては、学校、家庭、地域、そして行政が一体となって、しっかり連携をしながら、着実な歩みを進めていかなければならないところです。

加えて、学校教育を始め市民の生涯学習、健康、体力づくり、文化、スポーツの振興など、さまざまな取組について、すべての世代の市民を対象としているところであり、教育委員の皆さんにおかれましては、より一層のご苦勞をおかけすることになりますが、改めてご尽力を賜りますようお願いを申し上げます。

総合教育会議につきましては、委員の皆様と意見交換を通じまして、さまざまな教育課題について意思疎通を図りながら、課題克服や解決に向けた取り組みや、将来の教育への取組を進めていくうえで大切な会議であると認識しているところです。

是非、忌憚のないご意見をいただき、市政に生かしてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いを申し上げ、開会にあたってのご挨拶といたします。本日は、よろしくお願いいたします。

（津幡総務部長）

以降の進行につきましては、総合教育会議の議長であります荻原市長にお願いいたします。

### 3 協議事項

(荻原市長)

(1)「芦別市立小中学校配置基準について」でございます。

本市の小学校2校と中学校2校については、それぞれ特色ある教育活動が行われており、今後も次代を担う児童生徒の健全育成に向けて、より良い教育環境を確保していくことが不可欠であると考えております。

このような視点に立ち、年々、児童生徒数が減少している状況を踏まえて、本市の小中学校の配置基準のあり方について、どうあるべきかを協議事項にいたしたいと考えております。協議にあたりまして、現在の配置基準の内容や児童生徒数の今後の推移などについて、事務局から説明し、その後、教育委員さんのご意見をいただきたいと思います。

それでは、資料の説明をお願いします。

(事務局～高橋学務課長)

芦別市立小中学校配置基準について、私の方からお配りしております資料に基づき、ご説明申し上げます。

現在の配置基準についてであります。資料の1ページのとおり、平成23年9月27日に見直しされ決定しております。

次に、平成23年における配置基準の見直しの経過及びその概要を申し上げます。

芦別市教育委員会では、平成16年に将来の児童生徒数の減少を踏まえ、「芦別市立小中学校の配置基準」を策定しております。その内容については、3ページの表右側に改正前の平成16年策定のものを記載しております。その基準には、(1)小学校は、教職員定数配置基準のうち、教頭・事務職・養護教諭のいずれか2名が配置されないなど学校運営に支障をきたす場合。(2)中学校は、目安として20人以下の場合。(3)緑ヶ丘小学校は、危険校舎の認定を受けた場合とされました。また、統合する場合には、(1)西芦別小学校と野花南小学校については、上芦別小学校に統合する。(2)緑ヶ丘小学校と常磐小学校については、芦別小学校に統合する。(3)西芦別中学校については、啓成中学校に統合することとされました。

この配置基準に基づき、西芦別中学校については、平成17年度の生徒数が21名となり、その後の生徒数の減少を見据えて、平成18年4月1日に啓成中学校に統合したところです。

また、緑ヶ丘小学校については、平成21年1月に実施された耐力度調査により、危険校舎として認定されたことを受け、平成23年4月1日に芦別小学校に統合されたところです。同じく、資料3ページの表に記載のとおり、平成23年度からの学習指導要領の改訂などをはじめとした教育環境の変化や、引き続き児童生徒数の減少を踏まえ、子ども達がより多くの個性と触れあい、切磋琢磨しながら成長していくことができる教育環境の充実という観点に立ち、小規模校である常磐小学校・西芦別小学校・野花南小学校の地域住民や保護者の皆さんのご意見を伺い、平成23年9月に「芦別市立小中学校の配置基準の一部見直し」を実施し、現在の配置基準となっているところです。

その内容は、(1)小学校は、複式学級があり、その状態が解消されない場合。(2)中学校は、目安として20人以下の場合とされました。また、統合する場合には、(1)西芦別小学校と野花南小学校については、上芦別小学校に統合する。(2)常磐小学校については、芦別小学校に統合することとされたところです。

なお、中学校については、当時の生徒数の状況より今後の生徒数の推移を見ながら、必要に応じ検討課題とすることとされ、また、平成23年の配置基準の見直しの際には、本市における将来の学校数は、本町地区と上芦別地区の2地域における配置とし、小学校2校(芦別小と上芦別小)・中学校2校(芦別中と啓成中)の4校体制とするとされていたところです。

この配置基準に基づき、平成26年4月1日をもって常磐小学校が芦別小学校に、西芦別小学校と野花南小学校が上芦別小学校にそれぞれ統合され、現在に至っています。

なお、これまでの市内小中学校全体の統廃合の沿革につきましては、5ページの資料2でご確認ください。

次に、現在の児童生徒数と今後の推移についてですが、6ページの資料3をご覧ください。総合計では、令和2年9月現在の市内小中学校の児童生徒数は、小学校2校で367人、中学校2校で208人となっていますが、6年後の令和8年度においては、小学校2校で295人（72人減少）、中学校2校で177人（31人減少）となる見込みです。

7ページは、小学校児童数の推移を示したもので、8ページの上表の芦別小学校においては、令和3年度以降も新入学児童数が40人前後で推移するものの、令和6年度には27人となり、1学年1学級の状態が見込まれるところです。また、下表の上芦別小学校においては、新入学児童が10人前後で推移するものの、令和4年度は8人、令和6年度は6人となる見込みで、令和3年度の新入学児童については、13人のうち女子児童が1名となり、指導上の工夫や配慮が求められることとなります。

9ページは、中学校生徒数の推移を示したもので、10ページの上表の芦別中学校においては、新入学生徒が40人以上で推移する見込みであり、当面、1学年2学級の状態が継続できる見込みです。下表の啓成中学校においては、新入学生徒が10人以上で推移するものの、令和6年度は8人となる見込みです。

次に、その他資料の11ページには、資料4として「中空知管内市町における小中学校の現況」、12ページには資料5として「市内中学校の部活動の状況」、13ページには資料6として「小学校を統合した場合の教職員数」及び資料7として、「中学校を統合した場合の教職員数」に関する資料を添付しておりますので、ご参照いただければと思います。

以上で、資料の説明とさせていただきます。

（荻原市長）

事務局から資料に基づき説明がありましたが、これらの内容につきまして、何かご質問はありますか。

～ 各委員から特に意見なし ～

（荻原市長）

それでは、本市の小中学校配置基準のあり方について、教育委員の皆さんから忌憚のないご意見をお願いいたします。

（水上委員（教育長職務代理者））

今ほど、今後の児童生徒数の推計について説明がありましたが、本市も含めて地方の多くの市町村においては、少子化の進行や社会減に歯止めをかけることは難しいのが現実であると考えます。

この結果、児童生徒数の減少による学校の小規模化がますます進んでいくことが予想されます。義務教育が果たす役割は、教育の機会均等や教育水準の維持・向上を図り、児童生徒が「生きる力」をはぐくむことができる学校教育を保障することであります。このような観点から、芦別市の学校の適正配置のあり方について検討することが必要であると考えます。

現在の小中学校の配置計画は平成23年度に見直しを行いました。その段階では、中学校における統合の基準は生徒数が目安として20人以下の場合のままとし、配置基準の見直しは行わなかったところであります。

しかしながら、生徒数の目安が20人以下というのは、1学年あたり7人以下となり、このような数では一定の教育水準や教育環境を維持していくためには現実的な基準ではないと考えます。

このため、配置基準の見直しを行ったうえで、中学校においては適正な規模を確保するために今後、統廃合を進めていく必要があるものと考えております。

（荻原市長）

ありがとうございました。水上委員より、学校教育を保障するうえで配置基準に適していない。中学校については、見直しをする中で統廃合を進める必要があるとの意見でした。

そのほかの委員の皆さん、お願いいたします。

（山本委員）

小中学校では、単に教科などの知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、さらには問題解決能力などをはぐくみ、社会性を身につけさせることが重要であると考えております。

このような教育を十分に行うためには、一定の規模の児童生徒数の集団が確保されていることや、経験年数や専門性などについてバランスのとれた教職員が配置されることが望ましいところですので、適切な学校規模を確保していくことが必要であると思います。

また、特に中学生にとっての部活動は、有意義な学校生活を送る上で大切な活動であり、部活動を通じて協調性を育て、目標に向かって努力し頑張り抜く力をつけさせていくためにも、部活動の選択肢を広げていくことも大切な視点であると考えます。

このためにも、中学校の統廃合を進めていく必要があるものと考えておりますが、学校は単に教育のための施設だけではなく、地域のシンボリックな役割も持っておりますので、保護者や地域の皆さんからの理解を十分に得ることが重要であると考えます。

（荻原市長）

ありがとうございました。山本委員より学校の適正性、さらには部活動の重要性の観点から、中学校の統廃合に必要性について、保護者や地域の理解を得る必要があるとのご意見をいただきました。そのほかの委員さん、お願いいたします。

（坂井委員）

学校を卒業して厳しい実社会においても、しっかりと自立していくことができる児童生徒を育成していくことが大切でありますので、その基礎や基盤となる能力を育てていくことが義務教育の重要な使命であると考えております。

このため、水上委員や山本委員からも意見があったとおり、特に中学生においては、社会性や協調性を伸ばしていくことやクラスメートと、いい意味で刺激し合い切磋琢磨して、それぞれの目標や夢を抱いて確実な成長に繋げていくための教育環境を整えていくことが必要であり、そのために中学校の統合による学校規模の拡大が必要であると思います。

ただ、中学校の統合によって、学級数が増えることにはならないと思います。啓成中学校に在籍する現在の教職員の数がそのまま減少することになりますので、これによって芦別市内の経済消費にある程度の影響が出ることや、学校の閉校によって学校の維持管理費用が少なくなることにより、地元業者の受注量が減るなど、地域経済に対する影響は少なからずあることが懸念されます。

その一方で、結果として市の会計においては、学校の維持管理経費が減少することになると思いますので、このことを踏まえ、生徒の遠距離通学への負担軽減や学校教育の環境整備に対して、より一層の配慮が必要であると考えております。

（荻原市長）

ありがとうございました。坂井委員より中学校の統合によっては学校規模拡大の必要性、一方においては統合により経済が受ける影響、また、遠距離通学など環境整備などの配慮が必要ではないかといったご意見をいただきました。そのほか、ありませんか。

（須藤委員）

小規模校には、小規模校ならではのメリットとデメリットがあると思います。

メリットとしては、一人ひとりに目が向きやすく、学習面や生徒指導面での把握が容易で、個性や特性に応じたきめ細やかな対応や個別対応が可能であることが挙げられます。性格面でも児童生徒相互の人間関係が高まりやすく、異なる学年との縦の交流が生まれやすい環境にあるもの感じています。また、学校生活のさまざまな場面で、それぞれが児童学研や思いを発表する機会や、一人ひとりの活躍の場が多くなるなど、小規模校ならではの良さがあると思います。

しかし、一方で多くのデメリットもあることが現実です。例えば1学年 1 学級の場合、義務教育の9年間一度もクラス替えがなく、同じ学校集団で過ごすことで人間関係が固定化されつつあります。その中でいじめや人間関係が崩れるなどの問題が生じた場合、逃げ場がないなどの現状を実際耳にするとこです。学校行事も生徒数が少ないことで運動会、体育祭、学校祭、修学旅行などの集団教育活動での制約が生じ、学校全体が盛り上がりず活気がなく寂しさを感じます。

このような状況下での教育効果は、この先、期待出来るのかどうかは非常に懸念されるところです。また、教職員数が少ないことによる学校運営上の課題もいろいろあるのではないかと思います。

このようなことから、学校の統合によって小規模校特有のデメリットを改善するため、特に中学校の統廃合を進めていく必要性があると強く感じていますが、統合後においても子どもたちの個性や特性を尊重し、子どもたちに寄り添った教育活動が何より不可欠であると思います。

（荻原市長）

ありがとうございました。須藤委員より小規模校でのメリット・デメリットについて報告がありました。学級が 1 クラスによる様々な行事への制約や教育効果が懸念される。加えて、デメリットの改善には中学校の統廃合の必要性、統合後における子ども達への個性や特性について尊重し、寄り添った教育活動が必要であるとのご意見でした。そのほか、ご意見はありませんか。

（福島教育長）

私も教育委員皆さんのご意見のとおり、児童生徒が一定の集団の中でより社会性を身につけ、将来、社会を構成する一員として成長を促していくことが重要であると考えますので、本市の小中学校の配置基準の見直しと、とりわけ中学校の統合は必要であると考えます。

学校の統合は、単に2つの学校を一つに集約するということではなく、2つの学校がそれぞれ長い間、培ってきた地域との関わりを新たな学校においても、しっかりと継続し、より一層、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めていくことが重要であると考えます。

このようなことから、本市において導入しているコミュニティ・スクール制度や小中一貫教育のさらなる推進、充実を図りながら、中学校の統合に向けた対応を進めていくことが必要であると考えております。

（荻原市長）

ありがとうございました。小中学校の配置基準の見直しと合わせて中学校統合の必要性、また、統合に向けてはコミュニティ・スクールや小中一貫教育の推進や充実を図りながら、取り組む必要があるとの意見でありました。そのほか、ご意見はありませんか。

～ 各委員から特に意見なし ～

（荻原市長）

教育委員の皆さんからは、小中学校配置基準の見直しに加え、中学校の統合を進めていくことが必要であるとの一致した意見について確認させていただきます。

中学校の統合の必要性について、多様な考え方が示されましたが、私といたしましても義務教育の果たすべき役割として、児童生徒に社会的な自立の基礎、社会の担い手としての基本的資質を身につけさせることであると考えております。

このためには、皆さんのご意見と同様に、より良い教育環境と望ましい集団の中で児童生徒を育てていくことが重要でありますので、現在の啓成中学校の規模を考えますと、中学校の統合を進めていく必要が高いと考えております。

一方では、学校は児童生徒の教育のための施設であるだけでなく、地域のコミュニティの場としての性格や、防災拠点などの機能も有しておりますので、学校の統合については、保護者や地域の皆様の十分な理解と協力を得るなどの視点を十分に踏まえて、丁寧に進めていくこ

とが不可欠であると考えます。

次に、配置基準の見直しなどの進め方と中学校の統合時期について、ご意見をお願いいたします。

（福島教育長）

本日の総合教育会議におけます本市の小中学校配置基準の見直しの必要性和中学校の統合に関する考え方を踏まえまして、今月の定例教育委員会議におきまして、具体的な配置基準の見直しを行い、その後におきまして、中学校の統合に向けて、保護者や地域の皆様に対する説明会を開催するなど、適切な対応を図ってまいりたいと考えております。

なお、統合時期であります、配置基準の見直しと統合方針の決定から、実際の統合まで2年程度の期間が必要であると考えておりますので、令和5年4月1日に統合中学校としての第1歩を踏み出したいと考えております。

（荻原市長）

統合時期は令和5年4月1日という意見でありましたが、皆さん如何ですか。

（教育委員）

それで結構です。

（荻原市長）

それでは、中学校の統合は令和5年4月1日として、そこに向けて必要な対応を図るようお願いいたします。

（荻原市長）

次に、中学校の統合後における将来の本市の小中学校体制についてであります、このことについて、現時点において何かご意見がありましたら発言をお願いいたします。

（水上委員(教育長職務代理者)）

芦別市の年間の出生者数ですが、近年、40人から50人前後で推移しております。

また、人口規模が比較的似ている近隣の市においても小学校と中学校をそれぞれ1校体制にするとの考え方が示されてきております。

芦別は行政面積が広大でありますことから、児童の通学距離と通学時間にかかる負担の問題が懸念されますが、全国的な少子高齢化の中で、芦別においても人口減少とともに児童数の減少が続くことが予測されますので、いつの時点ということではありませんが、将来的な姿として小学校1校、中学校1校体制を想定しておく必要があると考えております。

（荻原市長）

将来的に小中学校、それぞれ1校体制を想定しておく必要があるとのご意見ですが、ほかに意見はありませんか。

（山本委員）

現在の上芦別小学校の児童数は85人ですが、6年後には63人になる推計ですので、単純計算いたしますと1学年10人程度の規模となります。

その後においても児童数の減少が続くことが考えられますので、その結果、集団的な教育活動が行いにくくなり、適正な規模の学校として維持していくことが難しくなってくるのではないかと思います。

私も、いつということではありませんが、今後の児童数の動向などを踏まえながら、将来的に小学校と中学校、それぞれ1校体制ということも検討していかなければと考えております。

(荻原市長)

ほかに意見はありませんか。

～ 各委員から特に意見なし ～

(荻原市長)

今後の児童生徒数の推移を踏まえ、また、どのような状況においても、次代を担う児童生徒の成長を支え、そして育む場所である学校の教育環境を決して後退させる訳にはならないものと考えております。

このようなことから、今後も適正な学校規模を維持していくため、時期は別にいたしましても、将来的には小中学校それぞれ1校体制を考えていかなければならないものと思っております。

なお、このたび見直しを行う小中学校の配置基準において、例えば、特記事項として、将来の本市の小中学校のあり方という観点から、小中学校それぞれの1校体制について、今後の児童生徒数の推移などを踏まえながら、適宜、検討をしていく旨、記載していただきたいと思います。いずれにしても、将来の新たな小中学校体制のあり方については、今後、時間をかけながら慎重に検討していかなければならない重要な課題であると考えております。

(福島教育長)

将来の小中学校のあり方といたしまして、市長からお話があった内容につきまして、今月の定例教育委員会議において見直しを行う配置基準にそのような形で盛り込んでまいりたいと思います。

(荻原市長)

そのようにお願いします。予定しておりました協議事項は以上であります。教育委員の皆さんから、そのほか、協議事項として提案すべき事項はありますか。

～ 各委員から特に意見なし ～

#### 4 意見交換、5 その他

～ 各委員から特に意見なし ～

#### 6 閉 会

(荻原市長)

本日の総合教育会議につきましては、以上をもちまして閉じさせていただきたいと思いますが、今後につきましても、本市の教育行政の振興や充実を図っていくためにも、皆さんと忌憚のない意見交換を行ってまいりたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。

以上